

教会巡礼 境復活教会

夏はマグロ、冬はカニが美味しい境港。水木しげるロードから徒歩3分もかからない地にある境復活教会の宣教の始まりは1891年に英国のCMS宣教師であるバックストン司祭とその弟子たちによって行われました。彼らの宣教活動の結果、境港の上道村で次第に求道者が増えていき、1892年に基督教境講義所が開設されました。しかし同講義所は1894年に閉所、1896年に再設、1997年に閉所、1898年に再開するなど、頻繁に閉所と開所を繰り返しました。これは、新伝道地開拓の困難さと、宣教師の信念との間の葛藤を如実に示しています。

1893年、境港出身の伝道師である藤本興喜師が網走教会より帰郷し、上道にある自宅に教会堂を建てました。最初は上道聖公会と名づけられましたが、1898年に上道キリスト教会となりました。その後、上道キリスト教会



は、上道村から境町（現在の地）に移転し、1923年には敷地内に聖心幼稚園が創設されました。しかしながら、1935年11月24日に境町で大火災が発生し、幼稚園園舎が焼失してしまいました。全国の聖公会信徒の方々から支援をいただくことで、教会と幼稚園を1937年に再建することができました。その際、「境復活教会」と改称しました。

1990年4月に上原信幸司祭が着任して定住し、2年後の1991年9月に、境復活教会の礼拝堂と牧師館の増築工事が完成し、祝福式を行いました。上原司祭が1992年に転出した後は、定住教役者を得られず、現在も近隣教会牧師の管理となっています。境復活教会は現在堅信受

領者6名という小さな教会ですが、バックストン司祭から始まり、沢山の方々によって蒔かれた信仰の種をしつかりと継承して、次の世代に信仰の種をしつかりと伝えていく教会を目指しています。また、①さ参加しやすい教会、②か関わりあいを持つ教会、③い祈りを守る教会という3つのビジョンを立て、家庭集会や聖書研究、松江基督教会との合同礼拝、併設してある聖心幼稚園の園行事に教会も参加することによって、祈りを守り、互いに愛し合う関わりを大切にしています。
(管理牧師 杉野 達也)

第61回国連女性の地位委員会

今年の3月10日(金)から24日(土)までニューヨークで行われた第61回国連女性の地位委員会(CSW61)に参加しました。CSWは国連の経済社会理事会の中にある委員会の一つで、女性の地位向上について勧告・報告などを行なっています。ACCは国連のオブザーバーであり、この会合に毎年代表団を送っています。

今年のテーマは「変化しつつある世界の労働形態における女性のエンパワーメント」で、様々な女性問題や教会としての取り組みなどの話し合いが行われました。私自身、普段の生活の中で女性の地位に関して考える機会は多くありませんでした。しかし、講話や話し合いなどでいろんな国の現状を聞いてみると、日本は経済大国でありながら女性の地位向上に関するアクションが近年は増えてきたにしても諸外国と比べて少ないと感じました。教会に連なるクリスチャンとして自分に何ができるのか。今すぐには何かアクションを起こすことは無理でも現状を



今年は日本を含め、世界各国から22名が代表として派遣されました。

この2週間でアメリカだけではなく、いろんな国の女性司祭や教会関係者の方々と話をする事ができテーマに関する事以外にも多くの学びがありました。これらの学びをこれからの教会生活で活かしていければと思います。
(徳島インマヌエル教会信徒・小林 真綾)

知る事、考える事、他人の意見を聞く事を通していろんな気づきが与えられました。またこの会期中、ACCの代表たちに「Hiroshima as the pilgrimage destination」と題して広島平和礼拝についての報告とこの11年間の広島での取り組みに関するプレゼンテーションを行いました。プレゼンの中で、私は青年が率先して平和について学ぶ大切さについても話しました。学生は普段生活する中で様々な選択肢があります。それらを取捨選択する中で「平和について学ぶこと」にベクトルを向ける人はあまり多くはないと思います。しかし、たくさんの方の事を吸収できる青年の間に少しでも意識を向けてみてほしいという願いを込めて話をしました。

今年の世界の労働形態に